

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0357
施設名	光明第二保育園
施設所在地	東京都小金井市貫井南町1-13-17
法人名	社会福祉法人 多摩養育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

意欲や自主性を育む環境

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日々の活動が子どもたちの視線や思いが子どもたちが主体となり活動が行える環境を整える。
紙や廃材などを使用し思い思いの制作が盛んである。しかし、セロテープなど使用する際に保育者に確認したり、手渡すことが多かったり、子どもたちの手が止まってしまう。思いや考えていることを言葉で伝えるメリットはある。

2. 活動スケジュール

- 1月 切る、貼るなどの制作コーナーについて検討。
- 2月 子どもたちが自由に工作などの制作活動が行えるよう材料や収納について検討。
- 3月 子どもたちの導線からどのような空間に設置し遊びや活動の幅が広がるか検討及び実施。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

子どもたちの活動に合わせ棚を設定。棚の仕切りを利用し、稲の観察棚として使用。
現在、室内の棚に数か所点在していた材料を子どもたちと相談しながら制作棚に集め、好きな材料を使い、工作や制作が楽しめるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

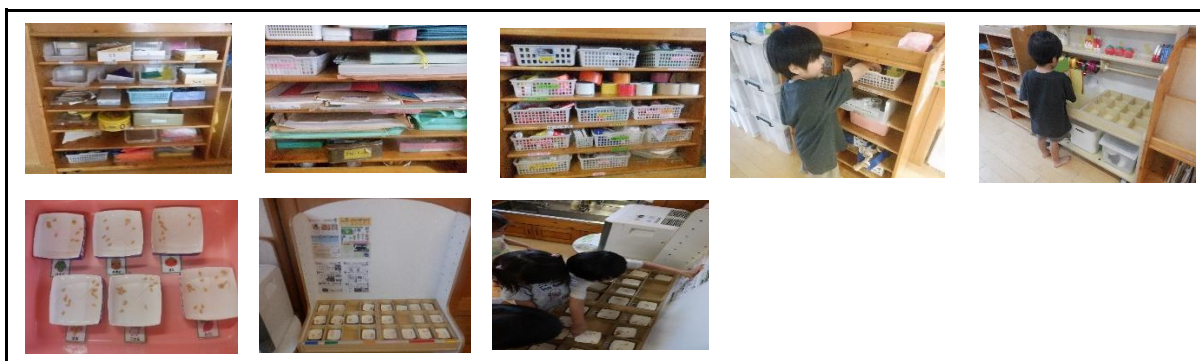
棚を活用し職員用と子ども用に分け自らがその分別を理解し、使用できるように子どもたちに説明。子どもたちが何のために利用し、その活動の幅が広がるように視覚的にわかるようにルールが掲示を貼った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

インクのケースにチームごとに飼育箱を作成。異年齢での活動のため、お世話や観察する際に高い棚から保育者が運んでいた。制作棚を利用したことで子どもたちの思いのタイミングで水やりや観察に繋がり、発育が進むにつれて喜びの会話に繋がった。また、棚に設置したことで3, 4歳児の興味、関心に繋がった。

5歳児では「お水がなくなってるよ」「芽が出てるよ」「次は、何をすればいいのかな」など会話を楽しみ自主的な姿が見られた。3, 4歳児では、「これ、なにかな」「さわらない」「5歳になったらできるの」など年長への期待感を感じる言葉も聞かれた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたち自らの考えや発想を発揮し、始めは制作で使う道具等を職員用と子ども用に分けて活用しようとしたがそれだけでなく、植物「稲を育てる」棚としても利用。様々な展開に広がった。今後の活動にも取り入れ継続とした。